

ワクチン接種ためらいへの対応

岡田 賢司

福岡看護大学 基礎・基礎看護部門

ワクチンで防げる疾患はワクチンで防ぐとするVPD (vaccine preventable diseases) の考え方がある一方で、以前から予防接種に対して消極的あるいは否定的な態度や考え方を示す人々がいることも注目されてきました。このような態度・考え方がWHOからVaccine hesitancyの用語で提唱され、“ワクチン忌避”、“ワクチン接種のためらい”などと訳されています。WHOは「ワクチン接種の機会が提供されているにもかかわらず、ワクチンに対する受け入れの遅れや接種の拒否が認められる場合」と定義しています。この態度・考え方は、ジェンナーが天然痘に対するワクチンである種痘を開発した200年以上前から存在していたとされています。

講演では、①本件の主に海外の疫学、②ワクチン接種のためらいとなる要因、③現場での対応について紹介したいと思います。